

2022年6月号

(2022年6月18日発行)

大阪：〒598-0013 大阪府泉佐野市中町 1-2-4

e-mail：[info@senshu-sr.com](mailto:info@senshu-sr.com)

HP：<https://senshu-sr.com>

# 泉州経営協会 静社労士事務所便り

## iDeCo 2022年の主な法改正

前月号では iDeCo の概要、メリットやデメリットを紹介しました。今回は、2022 年の法改正を中心に紹介していきます。※過去の事務所便りは、<<https://senshu-sr.com/>>の事務所便りタブよりご覧頂けます。

### ◆iDeCo 2022年の主な法改正

① 2022年4月から受給開始年齢が75歳まで延長になりました。

これまでは運用した年金資産は60歳～70歳で受け取り開始でしたが、75歳延長になることで運用期間が延び、運用益も期待(年金資産を増やす期待)できます。

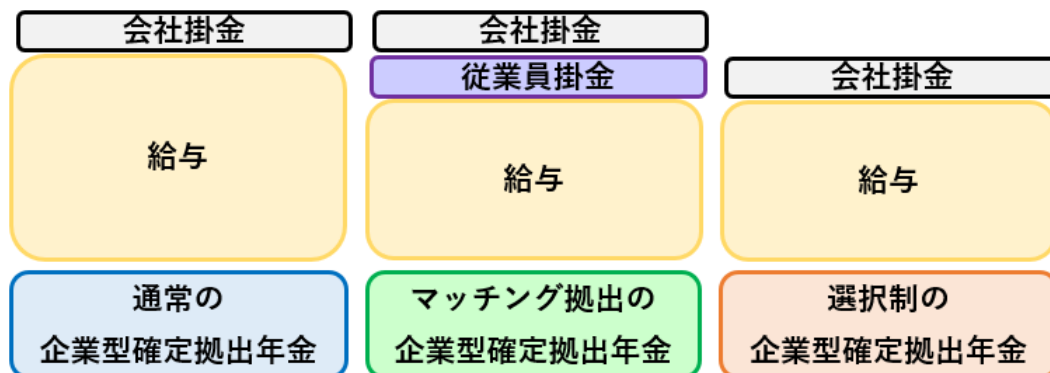
② 2022年5月から加入できる年齢が65歳まで拡大しました。

これまでは加入できる年齢が60歳まででしたが、65歳に拡大することで掛金拠出期間が延び、運用益も期待(年金資産を増やす期待)できます。ただし、iDeCoへの加入は国民年金への加入が要件となっており、国民年金は原則60歳までです。そのため、国民年金第1号被保険者と国民年金第3号被保険者は、未加入期間や免除期間等で国民年金を納めていない期間がある際に任意加入する必要があります。なお、60歳以降も厚生年金に加入していれば、国民年金へも加入となるため、国民年金第2号被保険者は任意加入は考慮する必要はありません。

※年金制度については、前月号1ページ目の図をご参照いただけますと幸いです。

③ 2022年10月からiDeCoと企業型確定拠出年金が併用しやすくなります。

企業型確定拠出年金とは、企業が掛金を拠出し、加入者である従業員が自ら年金資産の運用を行う制度のことです。掛金の拠出が自分ではなく会社、掛金の上限額は55,000円/月(確定給付企業年金がある場合は27,500円/月)、運用商品は自分で金融機関を選択するのではなく会社が用意した商品から選択、管理手数料は自分ではなく一般的に会社が負担する等、iDeCoとは異なる点があります。また、企業型確定拠出年金には、下記の3つのパターンがあります。給与とは別に会社が掛金を拠出する通常、会社掛金の範囲内で自分で上乗せするマッチング拠出、給与から切り出す選択制があります。



これまで iDeCo と併用できませんでしたが、2022 年 10 月から併用できるようになります。ただし、併用の場合、iDeCo 掛金 + 企業型確定拠出年金掛金は 55,000 円以内、かつ iDeCo の掛金は 20,000 円以内となります。

### ◆iDeCoの加入手続き

国民年金被保険者(任意加入者含む、免除等を受けていないこと)であることを確認し、金融機関の商品を選択、金融機関から入手した「加入申出書」に記入し、必要な書類を添付して、金融機関に提出してください(金融機関によっては、オンライン手続き可)。また、会社員など国民年金第2号被保険者は、会社の事業主に証明書を記入いただく必要がありますので、会社にお問い合わせください。

### ◆iDeCo加入の従業員がいる場合の会社の対応

会社員など国民年金第2号被保険者がiDeCoをするときには、会社は国民基金連合会に事業所登録する必要があります。従業員から「事業主証明をして欲しい」と言われたら、従業員から提出された「事業所登録申請書兼第2号加入者に係る事業主の証明書」に必要事項を記入の上、従業員にお渡しください。後日、事業所登録通知書が届きますので、次回からは通知書に記載された登録事業所番号を使用してください。

また、毎年1回、6～7月に対象者の現況届(第2号加入者の届出書 兼 事業主の証明書)が会社に届きますので必要事項を記入の上返送してください。なお、事業主証明は、今後は廃止の方向で検討されております。

### ◆公的年金シミュレーター

前月号で、**年金の平均受給額は、国民年金約56,000円/月、厚生年金約146,000円/月(国民年金含む)**と紹介したところ、「そんなに少ないの?」、「私はいくらもらえるのでしょうか?」といったお問い合わせをいただきました。そこで、2022年4月25日から試験運用が始まった厚生労働省の「公的年金シミュレーター」を紹介します。

公的年金シミュレーターはスマートフォンなどで年金額を簡単に試算することができます。

①日本年金機構から誕生月に送付される「ねんきん定期便」に記載の二次元コードを読み取る



②生年月日を入力する

③年金見込額が表示される

※「ねんきん定期便」が手元になくても、働き方や暮らし方など必要な情報を入力することで試算ができます。

※ID・パスワードも不要です。

※簡易に試算することを目的としており、実際の年金額とは必ずしも一致しません。

試算条件によって年金額が過大・過小に算出される場合がありますので、より正確な年金見込み額の確認をする場合には日本年金機構の「ねんきんネット」をご利用ください。

※厚生労働省 公的年金シミュレーター : <[https://www.mhlw.go.jp/stf/kouteki\\_nenkin\\_simulator.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/kouteki_nenkin_simulator.html)>

### ◆iDeCoについて

前月号、今月号にわたり iDeCo を紹介させていただきましたが、いかがでしたでしょうか。年金受給が近づく40歳代、50歳代のみならず20歳代、30歳代の若い方からの質問も多く、老後の備えは自分で行う意識が高まってきていることに驚かされました。iDeCoの加入者数は、2019年3月時点の121.0万人から、2022年3月時点では238.8万人と着実に加入者数が増えています。今後もより活用しやすくなる法改正があると思いますので、引き続き紹介していきたいと考えております。

